



①甘やかそう！

しつけが大事！と怒ってばかりいませんか？「子どもを育てる」ということはお父さんお母さんにとってはとっても責任重大ですね。だから厳しく育てなっちゃ！と一生懸命に子育てしているお父さんお母さん。それももちろん大事です。しかし、怒ることばかりがしつけではありません。子どものいう事をよく聞いて、望むことを望むようにしてあげましょう。たくさん甘やかしてあげることで、子どもは安心感を持ちます。この安心感が人間の心の土台となり、根っことなるのです。「ぼくは大切にされてるな〜」そう思えることが、強い心とたくましい心のもとになります。

★甘やかすことは、ほしがるものをほしがるままに与えたり、わがままをすべて聞きいれてあげるということではありません。子どもの気持ちを大切にすることです！じっくり話を聞いてあげたり、遊びに付き合ったり、興味を示したことはとことん付き合ったり、一緒にたくさん笑ったり、手をつないで歩いたり…そんな風に、その時その時の子どもの気持ちを大切にしていれば大丈夫です♪

②子どもを決めつけない！

「どうせできないから」とすぐに手を貸してしまいたくなりますね。忙しい朝なんかは特にそうですね。しかし、子どもが望んでもいないことをやってあげすぎるのは過干渉です。この「過干渉」つまり、なににおいても、お世話をやきすぎてしまうということは、返って子どもを傷つけてしまいます。時間の許す限りで結構です。「自分でできるようにになりたい！」「自分でやりたい！」そんな子どもの気持ちに寄り添ってみてください。子どもはゆっくりゆっくり大きくなります。昨日はできなかったことが、今日はできるようになるかもしれません。無限に広がる子どもたちの可能性を伸ばすのもつづけてしまうのも、大人の声かけしだいです。決めつけずに、今できることを伸ばしてあげましょう。それが次へのステップアップです！

③感情をぶつけない！

ついついイライラしてしまうこともあるのが子育てです。しかし、感情のままに叱ってしまうのはよくありません。否定的な言葉は小さな子どもだって傷つきます。「うるさい！」「まったく〇〇なんだから！」「なんでお母さんを困らせてばかりいるの！」「〇〇もできないの？困った子だね！」「どうせこの子は〇〇だから」などなど…あげればきりがないですね。子どもを傷つける言葉を言いそうになったり、爆発しそうになったり、手をあげそうになったとき、心の中で5秒数え、きつく叱ったり、手をあげたりすることが本当に必要なのか考えましょう。

④たくさんほめましょう！

大人でも、ほめられたり、努力を認められたりするととっても気分がいいものですね。できないことを叱ったり、誰かと比べたりするのではなく、小さなことでもできたならほめてあげましょう。失敗しても挑戦できたことをほめてあげましょう。大人から見たら当たり前に見えることも、ちっぽけに見えることも、子どもたちはみんな一生懸命です！

すべてをまとめると…

「子どもの自尊心を傷つけない」ということにつながります。

自分自身を大切にできる子どもに、そして自立した健やかな心をもつ子どもに育ててほしい…そんな願いを込めて、子育てをご家庭と共有していけたらと思っています。

これらをすべて完璧にこなそう！と頑張りすぎる必要はありません。生活の中で意識できることが大切です。

